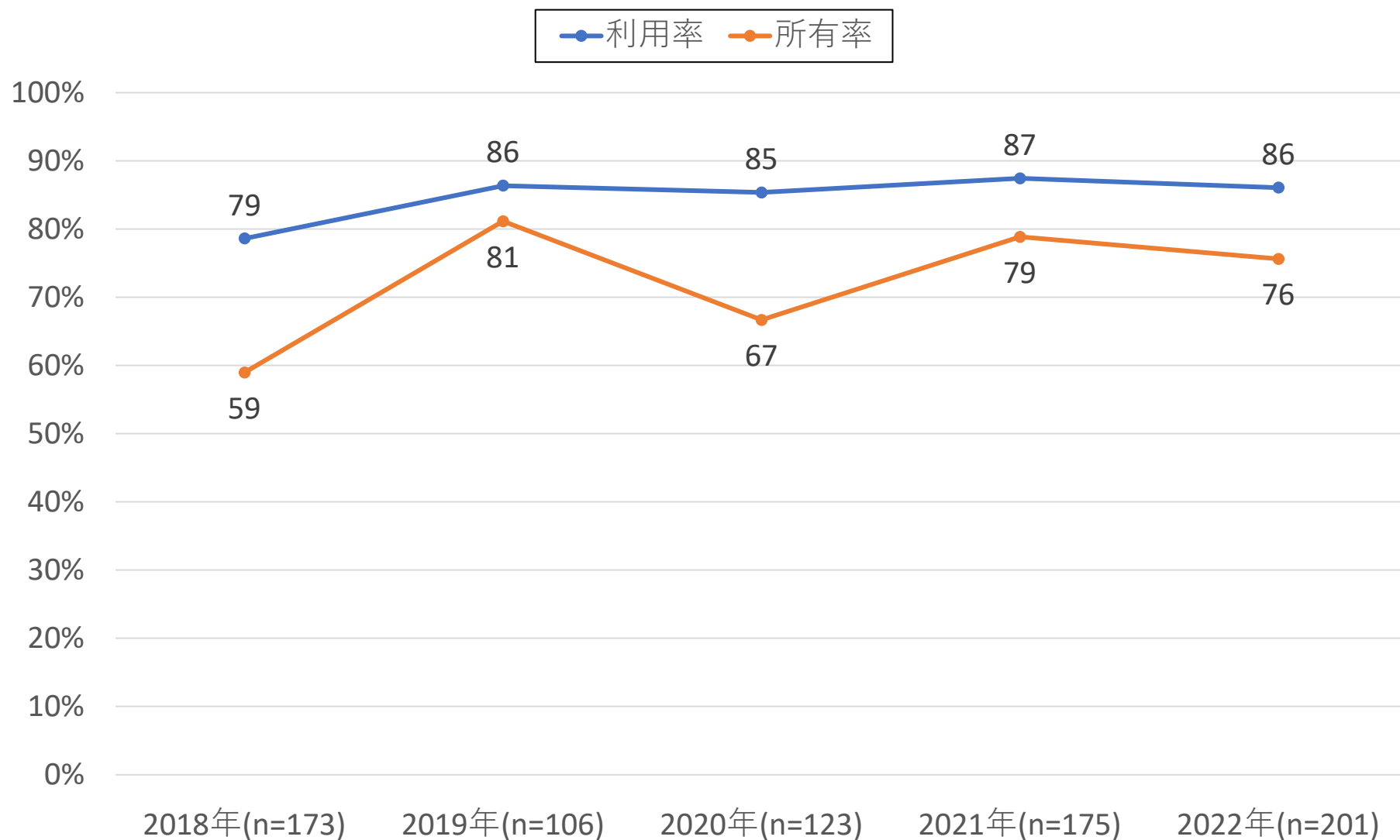




中学生のICT利活用 I スマートフォン編 —モバイル利用のライフスタイル研究—

○近藤 勢津子 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
水野 一成 (株式会社N T Tドコモ モバイル社会研究所)
飽戸 弘 (東京大学名誉教授)

利用・所有ともに右肩上がりではない



目的

中学生でスマホを所有させる親の特性を明らかにする

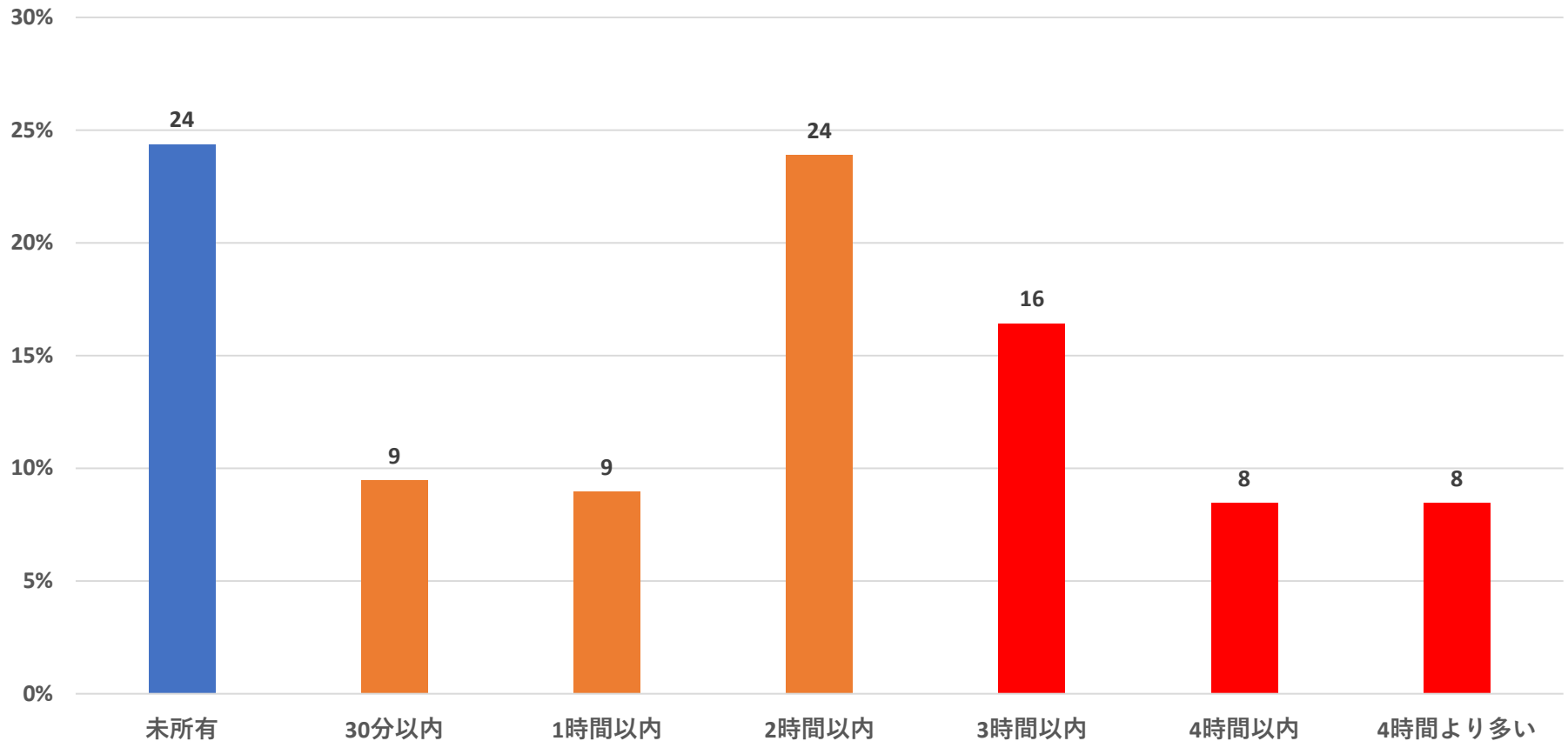
分析の流れ

- ①スマホの利用時間を基に数量化理論第Ⅱ類を用いて特性を分析
- ②①の結果を基に考察

調査概要

調査時期	2022.11
調査方法	訪問留置調査法
調査対象	関東1都6県，中学生の親子
割付	性別・年齢・都道府県・都市規模
サンプル数	201

スマホ未所有・所有低利用(2時間以下)・所有高利用(3時間以上)の
3群にわけ、これを目的変数とする



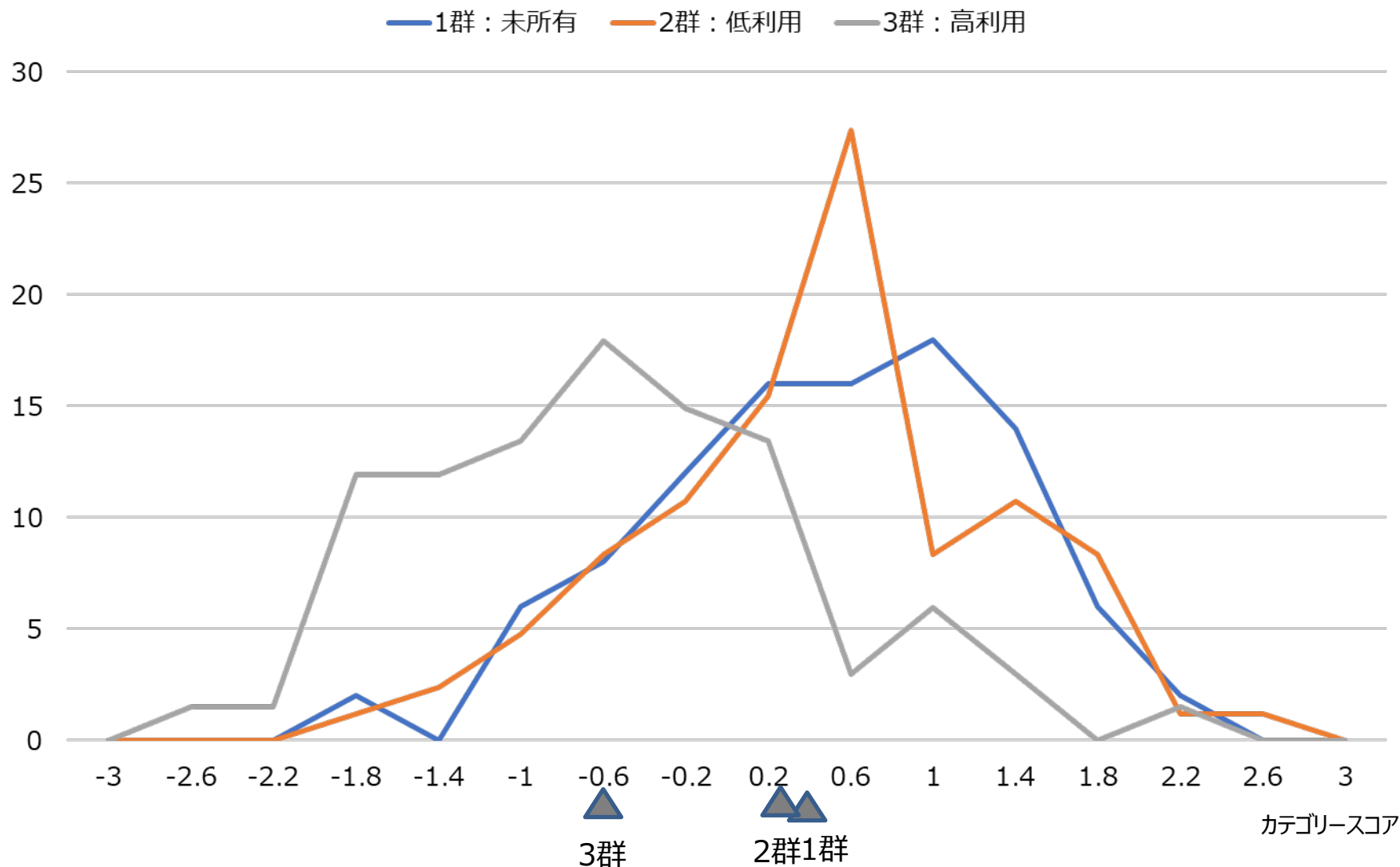
1群: 未所有

2群: 低利用

3群: 高利用

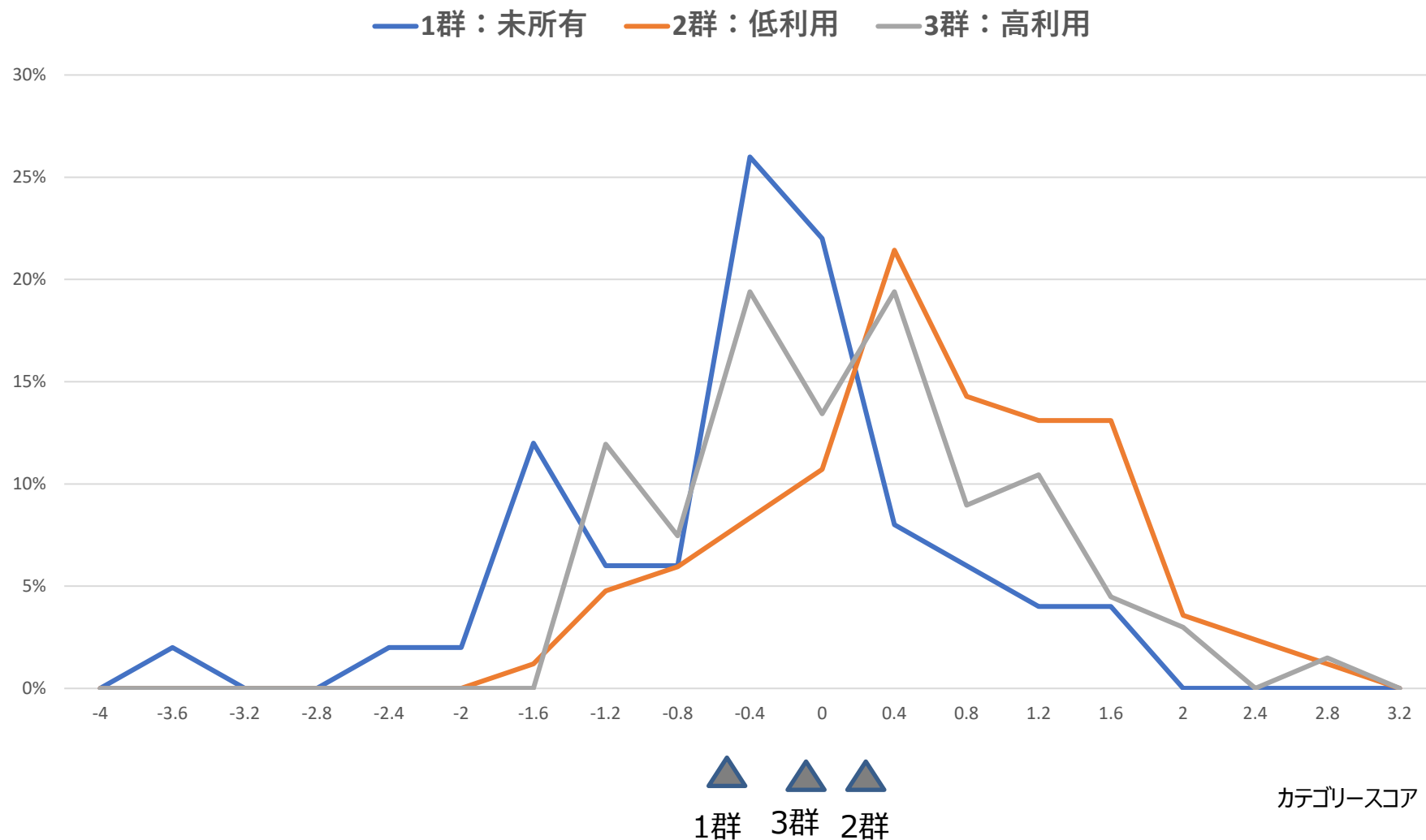
1軸は判別グラフ及び各群の平均値より「3群：高利用」と「1・2群：低利用・未所有」を分ける軸と解釈

相関比 $\eta^2 = 0.234$ 判別的中率87.6% 寄与率63.1%

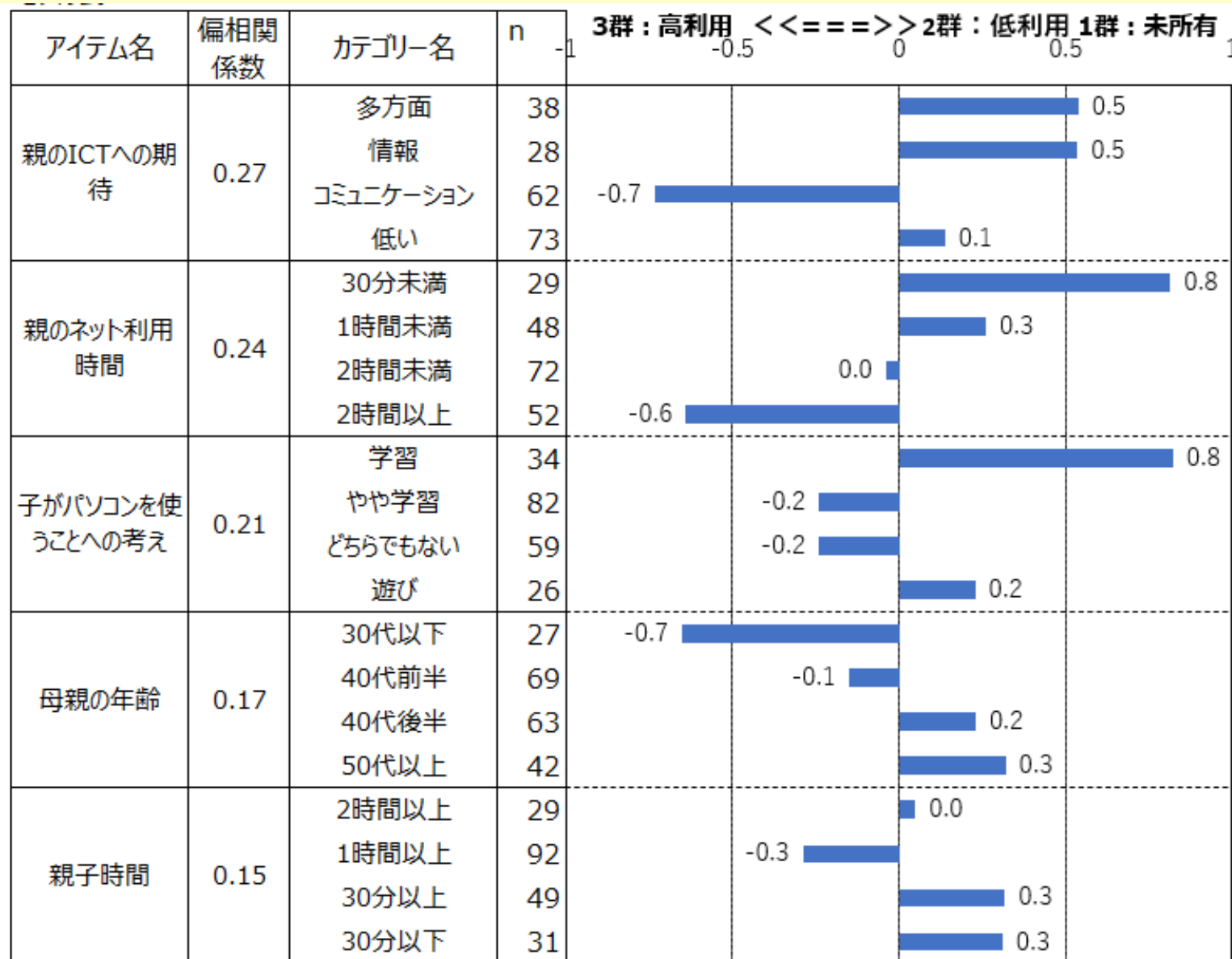


2軸は判別グラフ及び各群の平均値より「1群：未所有」と「2群：低利用」を
分ける軸と解釈

相関比 $\eta^2 = 0.137$ 判別的中率87.6% 寄与率36.9%



「親のICTへの期待」が「コミュニケーション」、「親のネット利用時間」が「長い」、
「子がPCを使うことへの考え」が「学習・遊びの両極でない」、「親の年齢」が「若い」と高利用傾向

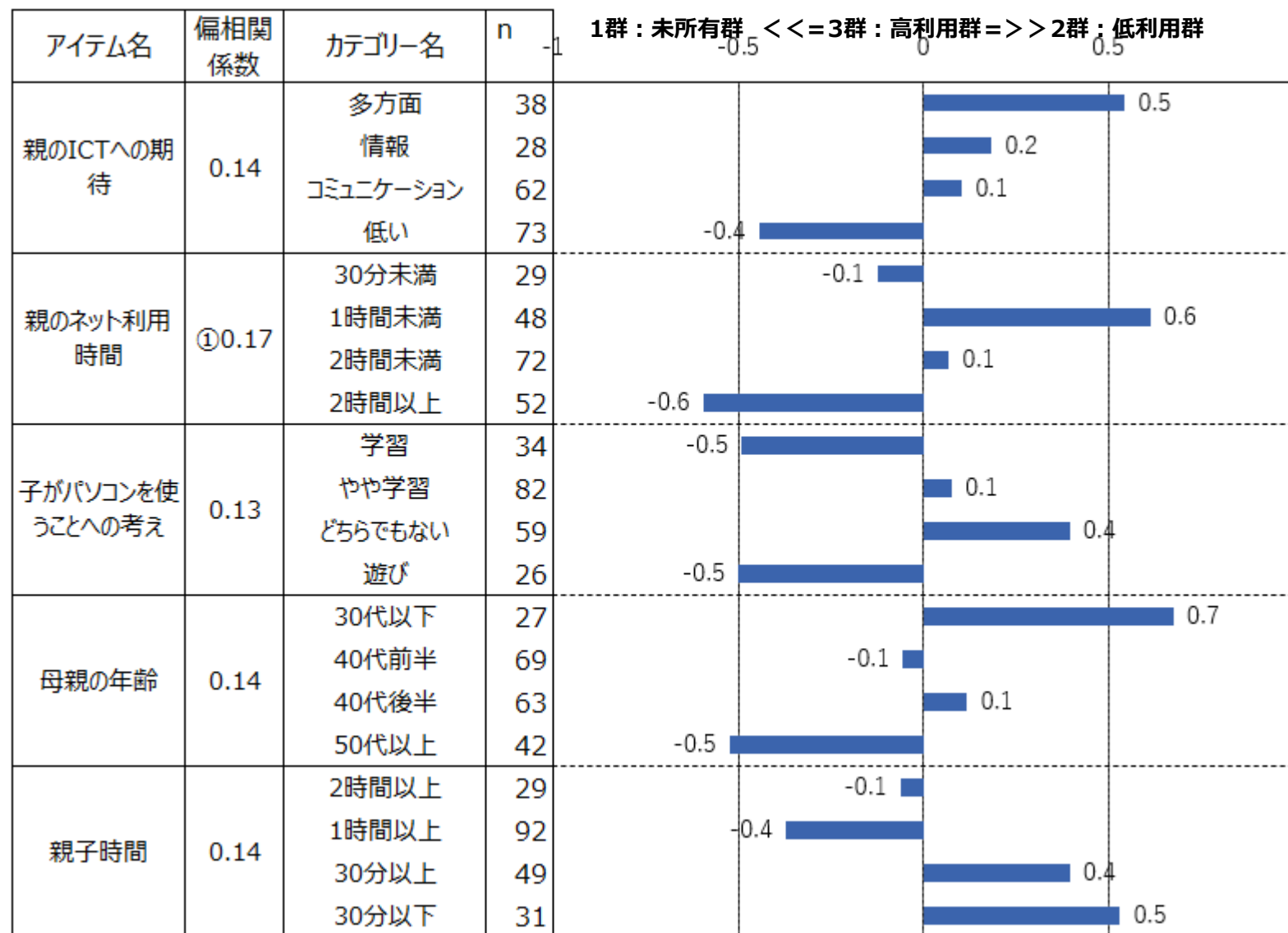


「ICTを使うことへの心配事」「子がスマホを使うことへの考え」「性別」は関係性が低い

3群：高利用群 <<==>> 2群：低利用群 1群：未所有

連絡の必要性	0.14	ある ある程度 ない	45 88 68	-0.5		
性別	0.13	男子 女子	103 98	-0.3		
スマホの考え	0.10	勉強・どちらとも やや遊び 遊び	57 83 61	-0.3		
ICTを使うことへの心配事	0.10	多方面 健康 情報 少ない	38 87 42 34	-0.3		

「親のネット利用時間」が「極端に長いか短い」、「子がスマホを使うことへの考え」が「勉強傾向」、
「ICTを使うことへの心配事」が「多方面」だとと未所有傾向



○は2軸における偏相関係数の順位

1群：未所有群 <<=3群：高利用群=>>2群：低利用群

連絡の必要性	0.09	ある ある程度 ない	45 88 68						
性別	0.12	男子 女子	103 98						
スマホの考え	②0.15	勉強・どちらとも やや遊び 遊び	57 83 61						
ICTを使うことへの心配事	③0.15	多方面 健康 情報 少ない	38 87 42 34						

○は2軸における偏相関係数の順位

■スマホ所有 高利用者

子がICT利用をすることで親が期待すること・・・「コミュニケーション能力が付く」のみ高い
「学習」「情報処理」に関しては低い

親のネット利用時間・・・長い

子がパソコンを利用ことへの考え・・・勉強、遊び両極端ではない（中間）

親の年齢・・・若い

■スマホ所有 未所有者

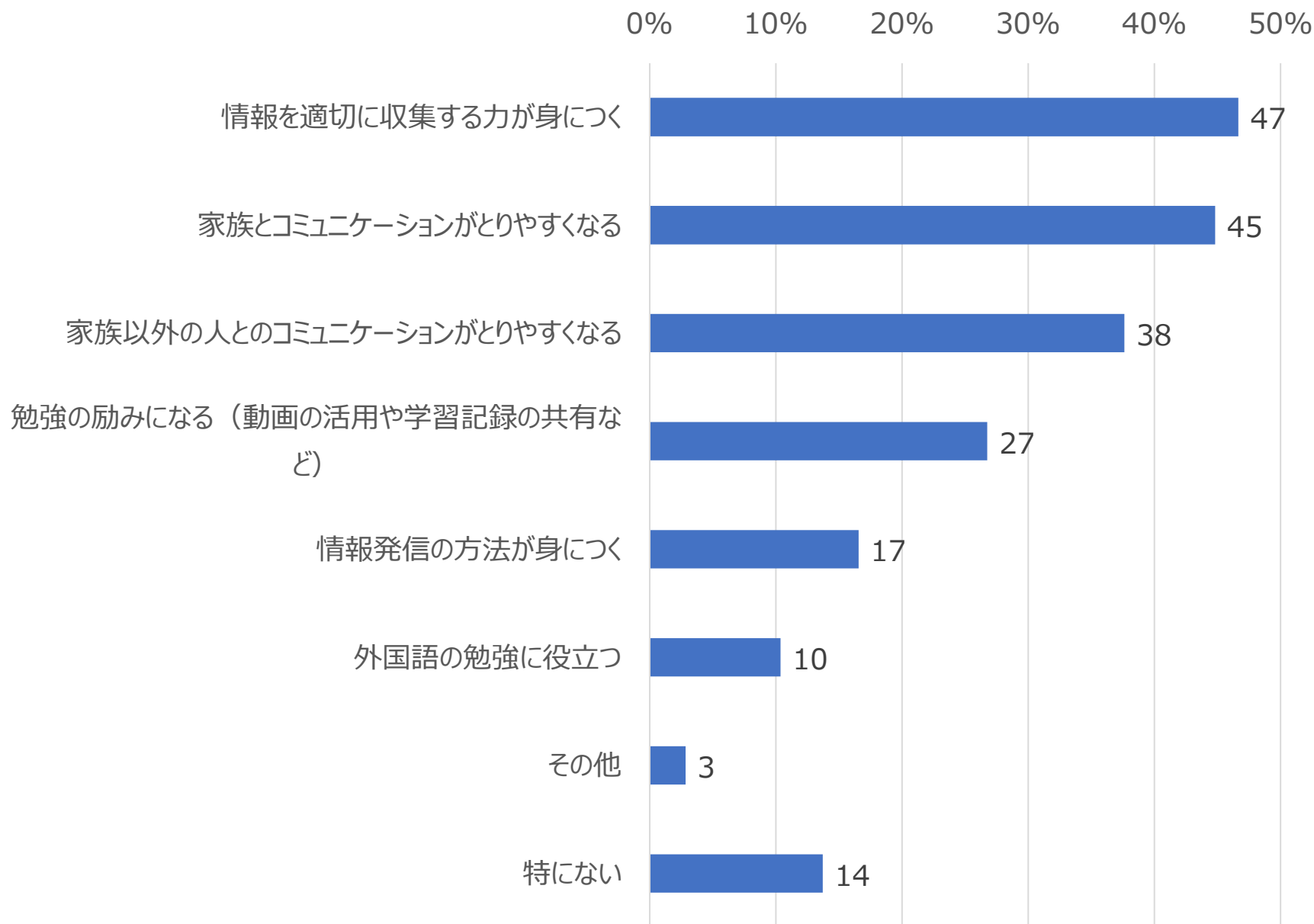
親のネット利用時間・・・極端に長いか短い

子がスマホを利用ことへの考え・・・勉強より

子がICT利用をすることで親が心配すること・・・多方面

**親のネット利用時間と合わせてパソコン（ネットへの利用）への考えが影響している
⇒パソコンの利用特性については、中学生のICT利活用Ⅱ パソコン・タブレット編で説明**

参考資料



	学習	コミュニケーション	情報
<5> 外国語の勉強に役立つ	0.62	0.09	0.09
<6> 勉強の励みになる（動画の活用や学習記録の共有など）	0.38	-0.06	0.18
<4> 情報発信の方法が身につく	0.28	0.08	0.26
<2> 家族以外の人とのコミュニケーションがとりやすくなる	0.02	0.65	0.16
<1> 家族とコミュニケーションがとりやすくなる	0.02	0.41	-0.05
<3> 情報を適切に収集する力が身につく	0.18	0.03	0.57

	少ない	情報	多方面	コミュニケーション
コミュニケーション	-0.40	-0.56	0.70	0.74
情報	-0.22	0.80	0.70	-0.44
学習	-0.38	0.40	0.83	0.05